

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年10月2日】第179号



授業参観

9月25日(月)からの3日間、各学級 毎日12名ずつの保護者にご来校いただいた授業参観を行いました。ご覧いただく授業の数や、科目の種類はまだ十分とは言えない中でしたが、たくさんの保護者の皆様にお出かけいただきました。

特別な授業内容にしたり、授業参観用の進行にしたりするようなことはせず、いつも通りの授業をご覧いただきましたが、子どもたちはいつもより輝いていたようです。いつもより多く元気な手があがり、いつもより素早く課題に取り組んでいました。そして何より、子どもたちはお父様やお母様の姿を待っており、見ていただくのを喜んでいる様子も、ほほえましいことでした。

農大稲花小の授業参観については、まだまだ試行錯誤中です。適切な学習環境を保ちながら、保護者の皆様にはいつも通りの授業がご覧いただけるよう、これからも工夫してまいります。

清掃工場見学

9月25日(月)、4年生は社会科見学で世田谷清掃工場の見学に行きました。工場は、砧公園に隣接しており、本校からも近い位置にあります。そのため、農大稲花小としては初めての試みとして、公共バスでの訪問となりました。乗客にご迷惑がかからないかと考えたのは杞憂で、子どもたちのマナーは良く、給食時間には元気よく見学から戻ってきました。

4年生は1学期には水やその源流について学び小菅村に宿泊学習に行き、2学期はゴミ処理について学んで清掃工場に見学に行きました。それぞれのご家庭の高い意識を反映してか、SDGsやリサイクルにも強い関心を持つ子どもたちです。工場では熱心に話を聞き、質問もして、深い学びができた様子です。

落ち葉の季節になれば、落ち葉たい肥作りにも取り組む予定です。

お団子とお豆腐

現3年生と現4年生は、それぞれ2年生と3年生だった3学期に、東京農業大学食品加工センター野口智弘教授に、お団子とお豆腐についての授業をしていただきました。そして、春休みには、家庭実習として野口先生特製のお団子粉、またはお豆腐作り用容器を持ち帰り、お団子作りとお豆腐作りに取り組みました。授業での説明を思い出しながら、また、先生の動画を見ながらの家庭実習です。

集まったレポートは、素晴らしいものばかりでした。保護者様に見守っていただきながらがんばって作った子ども、保護者様や兄弟姉妹と楽しく作った子ども、おじい様、おばあ様にも召し上がっていただいた子ども、お団子について、あるいはお豆腐について調べた子どももいます。レポート形式、新聞形式、イラスト入り、英語で書かれたもの…。子どもたちの力が存分に発揮された力作を、校長も楽しく読み、野口先生にもご覧いただき、時間がたってしまいましたがようやく返却しました。

お団子の成功率は高かったですが、お豆腐は固まらなかった子どももいます。うまくできた子どもも、あまり思わしくなかった子どもも、またぜひ、チャレンジしてほしいものです。安全で楽しい家庭実習にご協力くださいました保護者の皆様にも感謝します。

アフタースクールも保護者参観

9月28日(木)そして29日(金)、アフタースクールでも保護者様の参観がありました。コマ、ダンスなどの発表もあり、アフタースクールの様子をゆっくりとご覧いただけただようです。アフタースクールには、様々なプログラムがありますが、それだけでなく、子どもたちがリラックスして友だちと遊べる大切な場所でもあります。学校とは違った友だち関係、またスタッフなどの大人とのかかわりの中で、さらに大きな成長が期待できると考えています。

ご飯が炊けました

5年生は家庭科で、炊飯と味噌汁作りに取り組みました。職員室には準備のために懐かしい削り箱(鯉節削り器)が登場し、どのような家庭科の授業になるのか、子どもたちの様子はどうかと思いつつ、その日を待ちました。

子どもたちが真剣に取り組んだその日、炊きあがったご飯と、大根と油揚げの味噌汁は、子どもたちが味わうだけでなく、担任の先生方、そして教頭や校長にもお届けがありました。子どもたちが職員室に届けてくれたご飯とお味噌汁のおいしかったこと。校長は運んでくれた子どもたちがじっと見つめる中、1期生である5年生の子どもたちの成長を実感するうれしい気持ちでいっぱいになりながら、じっくりと味わいました。

家庭科の授業では、家事についても考えました。家事をしてくださるお家の方々への感謝の気持ちもわいたことでしょう。調理実習でも日ごろのご家庭でのお手伝いの様子がはっきりとわかるようです。手際のよい子、よく気づく子、お家でもやっているという子は、自信をもって取り組むことができています。勉強が忙しくてお手伝いができない、させられないということが農大稲花小の子どもにあってはいけません。これを機会に、家族の一員としてのお手伝いを、ご家庭でも改めて考えてみていただければと思います。

秋の種まき

9月29日(金)、1年生の稲花タイムでは、東京農業大学造園科学科の金澤弓子先生に指導していただき、秋播き草花の種まきをしました。まず、植物のいろいろな役割や、木と草花の違い、さらに種が発芽するために必要なものについて学びました。種が発芽には温度と水と空気(酸素)が必要ですが、日光は必要ありません。子どもたちは、種が発芽と植物の生長では必要なものが違うということにも気づいたようです。

その後、テラスに出て、1人1鉢ずつ、ネモフィラとキンセンカの種をまきました。鉢の土は、5年生の作った落ち葉たい肥を施したものです。また、学級ごとのプランターにはナノハナを播種しました。大学院生のお兄さん、お姉さんにも手伝っていただきました。1年生が2年生になる春、これらの花がきれいに咲くことでしょう。水やりを忘れずに大切に育てていきたいものです。

東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子